

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学生部	担当部局：学長室・教務部・学生部
大項目	8 学生支援 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	8.0.1 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。 【担当部局：学長室】	
要素	学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する方針の明確化	
小項目	8.0.2 学生への修学支援は適切に行われているか。	
要素	留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性【担当部局：学長室】 補習・補充教育に関する支援体制とその実施【担当部局：教務部】 障がいのある学生に対する修学支援措置の適切性【担当部局：教務部】 奨学金等の経済的支援措置の適切性【担当部局：学生部】	
小項目	8.0.3 学生の生活支援は適切に行われているか。【担当部局：学生部】	
要素	心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮 ハラスメント防止のための措置	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 「オンリーワン」の学生を育てるために、効果的で総合的な学生支援を押し進める体制を整備する。	→学生支援に関する全学的な方針を定める。	C
2. 休・退学者の状況を把握し、退学率を抑制・低減する。	→退学率2%未満を保持する。	B
3. 障がいをもつ学生に対して総合的な支援を行う体制を整備する。	→キャンパス自立支援課と学生支援センターの統括	C
4. 関学支給奨学金（経済支援型奨学金）対象者数を増加させ、関学貸与奨学金（入学時及び家計急変等の緊急時対応）の目的を特化させる（貸与奨学金の定期採用に代えて、支給奨学金の規模を拡大する）。	→現行、貸与奨学金（定期採用）の予算約8,500万円のうち、1,000万円（25名程度採用可能）を補充採用分として確保し、残額を支給奨学金予算（現行約2億9,300万円）に上乗せする。これにより、支給奨学金の採用者数を250名程度増加させる（1名当たり30万円支給とした場合）ことが可能となる。なお、奨学金の全体像について整備が必要であり、現行の支給奨学金の選考方法等についても見直すこととしている。	B
5. キャンパス・ハラスメント防止に関する研究会を、各組織がそれぞれ最低5年間に1回は開催する（2010年4月段階で、11学部及び併設の研究科、2つの専門職大学院、1つの独立研究科 合計14組織）。	→各組織の研究会開催状況（開催件数）。5年間に最低1回はキャンパス・ハラスメントの講演会を開催する。	B
6. 体育館を利用する課外活動団体の活動を強化する。	→総合体育館を使用する課外活動団体8団体（バスケットボール部、バレーボール部、ハンドボール部、バドミントン部、レスリング部、フェンシング部、卓球部、器械体操部）に対して、年間951時間20分の使用時間増を実現する。	B
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★	小項目8.0.1	(方針) 総合的學生支援の基本コンセプトの実現に向けてまず学内各部局に散在しているデータや二つの追跡調査をもとに、学内に存在するデータの把握と整理し、ここから學生支援に関するデータ収集及び分析のための枠組み設計を行う。そこから全学的な会議体「総合的學生支援連絡会（仮称）」を立ち上げ、総合的學生支援に向けた全学的な施策立案を行う。
		(現状説明) 総合的學生支援を進めるため、担当の副学長、学長補佐を任命し、さらに専任職員を1名配置した。今後は総合的學生支援小委員会を設置し、総合的學生支援の基本コンセプトの実現に向けてまず学内各部局に散在しているデータや二つの追跡調査をもとに、学内に存在するデータの把握と整理を行う。ここから學生支援に関するデータ収集及び分析のための枠組み設計を行う。また2010年度の下期には「総合的學生支援連絡会（仮称）」の立ち上げ、総合的學生支援に向けた全学的な施策立案を行う。 新中期計画の実施計画案の「ロードマップ」から一部変更しているものの、概ね計画通り進んでいる。しかし計画実行中であるため、進捗評価は「C」として今年度末もしくは次年度初めに進捗状況について評価したいと考える。
★	小項目8.0.2	(現状説明) 修学支援関係においては、退学者の理由確認、今後の進路の相談は各学部において、的確に行われている。退学率は1.3%。 障がいをもつ學生に対する総合支援体制の整備については、2010年4月にスタッフの交代があり、新たな体制で障がいのある學生の支援を進めている。本学は障がい學生支援について拠点校に位置づけられており、その役割を担うために研鑽を重ねている。現段階では一定程度の支援ができている。しかしながら、大学の規模が拡大し、障がいのある學生の数も増加しており（とくに発達障害のある學生）、今後の対応を進める必要がある。また、學生支援という観点では多様な幅広い対応が必要となっており、學生支援を担う部署を統合して、総合的な支援が行えるようにする必要がある。さらに関西学院内の学校（中学部、高等部、千里国際学園）にも障がいのある學生が在学しており、大学だけではなく、学院全体で取り組む必要も出てきている。このような状況を受け、現在、大学新中期計画の施策「學生支援センターとキャンパス自立支援課の統合」において具体案を検討している。 奨学金に関しては、2009年度に従来型（学力+家計状況）の奨学金規模を拡大したことに加えて、経済支援型支給奨学金を新設した。前者は、家計状況が困窮している中で学業を頑張っている學生に報い（350名増）、後者は、學生生活を安心して行うことのできる奨学金（200名程度新採用）として運用しており奨学金の充実を図っている。
		(現状説明) 学部・研究科における部局独自のキャンパスハラスメント研修に関して、2005年度は2件、2006年度は2件、2007・2008年度はいずれも0件であったが、2009年度に補助金制度等を設定、結果、学部で2件、研究科で1件の研修会が開催できた。2010年度は、年度始めに、あらためて学部・研究科に対して補助制度を周知すると共に、研修資料を提供することで、より開催しやすい環境の整備に努めている。
★	その他	4月1日より7月8日までの間で、バスケットボール部（161.5時間）、バレーボール部（20.6時間）、バドミントン部（55時間）、レスリング部（53.3時間）、フェンシング部（67.6時間）、器械体操部（39.8時間）、卓球部（124.9時間）が時間延長を申請し、（ ）内の時間を昨年度よりも多く確保することができた。それらの合計は571.7時間である。 また、事務統合により、学生会館内にある体育施設（温水プール）の時間外使用を認めることができるようになり、水上競技部が早朝の空き時間を利用して、同時期に49時間の練習時間増加を実現した。

《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価（現状分析）が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

		単位	2005	2006	2007	2008	2009	備考	
指標1	在籍學生一人あたりの奨学金金額	支給	円	25,148	26,530	27,214	30,011	35,968	支給奨学金総額÷在籍學生数
		貸与	円	190,901	210,852	232,482	249,000	262,927	貸与奨学金総額÷在籍學生数
指標2	奨学金採択率	支給	%	7.3	8.4	7.3	9.3	9.9	支給奨学金採択者数÷在籍學生数
		貸与	%	27.3	29.3	32.1	33.5	34.7	貸与奨学金採択者数÷在籍學生数
指標3	奨学金受給者一人あたりの額	支給	円	345,972	315,289	368,886	322,143	363,566	支給奨学金総額÷支給奨学金受給者数
		貸与	円	698,411	718,631	722,148	744,000	758,307	貸与奨学金総額÷貸与奨学金受給者数
指標4	學生支援センターの利用者数	人	2,201	2,347	2,146	2,257	2,018	利用者数は延数	
指標5	退学者比率	%	1.33	1.28	1.26	1.13	1.31	退学者数÷在籍學生数	
指標6	學生生活の充実度	%	-	71.60	-	-	-	「充実している」「まあまあ充実している」「普通である」「あまり充実していない」「充実していない」のうち「充実している+まあまあ充実している」とする。	
指標7	学生会公認団体/自治会傘下団体の構成員比率	%	19.79	22.68	21.53	22.03	20.44	(学生会公認団体構成員数+自治会傘下団体構成員数)÷在籍學生数	

注)奨学金は学内および学外を合計した金額とし、指標1~4は学部生、大学院生、専門職大学院生を対象とし、指標5~6については学部生を対象とする。

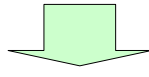
注)指標4は、西宮上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパスの利用者の合計とする。

注)指標7について、学部生、大学院生、専門職大学院生を対象とし、学生会公認団体は6総部(体育会、文化総部、応援団総部、新聞総部、総武放送局、宗教総部)、自治会傘下団体は法学部自治会、商学部商学会研究会委員会とする。母数となる在籍學生数は5月1日現在の数字。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目8.0.1	現状報告の通り、学内各部局に散在しているデータや二つの追跡調査をもとに、学内に存在するデータの把握と整理を実行に移した。
小項目8.0.2	現状報告のとおり、退学率は1.3%で、2%未満の保持という指標は達成できた。関西学院大学支給奨学金AおよびBは予算規模拡大や制度の新設により採用数の増加に寄与している。
小項目8.0.3	年度始めに学部・研究科に対して補助制度の周知及び各種研修資料を提供することで、各部局の意識が高まっている。
その他	バドミントン部（男子：1部昇格、個人で関西準優勝、女子：初の関西制覇、個人で関西優勝）、バスケットボール部（男子：西日本3位）、器械体操部（関西3位、男子団体＝全日本への出場資格獲得）、水上競技部（競泳パート：関西3冠）など、徐々にではあるが各部とも戦績を上げてきている。特にバドミントン女子の関西初優勝、3位に終わりはしたものの器械体操部の躍進など、練習時間をこれまで以上に確保することができるようになったことで、チームや個人の戦績向上を大いに期待できるようになった。



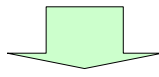
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目8.0.1	継続して学生支援に関する正確なデータ収集及び分析のための枠組み設計を行う。また2010年度の下期には「総合的學生支援連絡会（仮称）」の立ち上げ、総合的學生支援に向けた全学的な施策立案を行う。
小項目8.0.2	退学者の学部における面接、退学理由の確認は引き続き、きめ細かく行う。支給奨学金制度の拡充および貸与奨学金制度の目的特化については、現行制度の検証や財源確保の検討を含めてすすめていく。
小項目8.0.3	各種研修資料の一つに、人事課、宗教センターが所蔵しているハラスメント関連の研修ビデオ情報が含まれているが、今ひとつ活用されていないので、学部・研究科に強制的に貸し出し、所属の教職員がいつでも見られる環境をつくりだす。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目8.0.1	現状報告の通り、データの把握と整理の進捗状況によって改善点を確認していく。
★小項目8.0.2	中途退学理由の中で、「その他」が最も多く、より具体的な理由を調べる必要がある。統合に関して、支援を必要とする学生の増加および多様な障がい種や程度への対応をしていくため、組織体制の整備と、障がい者支援に対する、学長府、法人および教職員の理解が必要。奨学金に関して経済支援型奨学金については、制度設計のシミュレーションのときよりもはるかに経済状況が悪化したことも起因して十分な採用を行っているとは言い難く、更に予算を充実する必要がある。
小項目8.0.3	キャンパスハラスメントに関する意識を常にもってもらえる必要があるため、現行の方式に満足せず、常に改善を行う。具体策は、次年度に向けた方策に記載。
その他	屋内競技でありながら屋外練習場しか持たない男子ハンドボール部の練習場所および試合会場の確保。



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目8.0.1	現状報告の通り、データの把握と整理の進捗状況によって改善点を確認していく。
小項目8.0.2	各学部における面接時に、退学理由の確認を引き続き、きめ細かく行う。統合に関しては新たな総合支援センターの計画案を策定し、新たな体制整備への理解が得られるよう進めていく。奨学金に関して予算の確保は勿論であるが、現行制度の枠組みを見直す等も進める必要がある。
小項目8.0.3	年度始めに学部・研究科に対して補助制度の周知及び各種研修資料を提供しているが、年度途中にも、情報を更新して発信する。
その他	現在、優先的に総合体育館を使用している団体との日程・時間調整により、男子ハンドボール部が僅かでも総合体育館で練習できるような環境作りが必要。同時に、神戸三田キャンパスや西宮聖和キャンパスの体育館を効率的に利用することができる体制を検討する必要がある。また、現在は休館日には練習はもちろん、試合も行うことができないが、せめて試合や大会の開催については、学生会館新館ともども使用できるように変更することも検討する。

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	総合体育館については、単に課外活動の支援を強化するという視点だけでなく、全学生へのサービスという視点で、学生会館旧館とともに建て替えを検討すべきであると考え。前述のハンドボール部の使用についても、現状ではかなり難しいものがある。いずれの施設も全学生に還元されるものであり、高中ゾーンの確立についても含めて考え、「高等部体育館の独立」や「トレーニング施設の統合」など、将来的な体育館の拡充を検討する。
----------------	---

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

【学外委員】

- 退学率については2%未満の目標が維持されている点が評価できます。
- 奨学金については、額、採択率のいずれの指標も改善がされており、制度充実に向けた取り組みが評価できます。
- 障害をもつ学生への支援、スポーツ関係の団体支援は具体的な取り組みが記述されているなど、積極的な姿勢がみられています。
- それに比して、キャンパスハラスメントの活動は、その取り組みの姿勢や改善の成果について、曖昧な記述が多いところが懸念されます。何がボトルネックなのか、根本的な検討が望まれます。
- データの統合、2つの追跡調査の整備、とその活用を今後進めていくことが期待されます。

【学内委員】

- 全体的に誠実な自己点検・評価で好感が持てます。現在問題となっている補習・補充教育について関西学院の状況についてご説明願いたい。また、日頃の心身の健康保持・増進、安全・衛生への全学的な配慮についても記述があればなお好ましい。
- 現状が詳細に説明されており、評価できます。改善方策の中で、中途退学について、「具体的な理由を調べる必要がある」とされており、着実に実施することが期待されます。
- 退学率1.3%は評価できます。
- 小項目8.0.1の現状説明における（方針）が現在策定中であれば、「策定中」の表記で結構です。方針に書かれていることは、（現状説明）において記載されています。
- 「学生支援に関する全学的な方針」の策定を目標に掲げられています。新基本構想・新中期計画の施策としてその早期実現が期待されます。
- 進路支援の方針は、小項目8.0.4でキャリア・センターが明示しています。本小項目に移されることが適当ですが、シートの構成から考えれば、現状の方が見やすいのでこのままとします。ただし、「進路支援の方針は小項目8.0.4に記載」と明示してください。
- 発達障がいのある学生への対応は適切な対応が必要です。全学的な対応が望まれます。
- 奨学金の拡大と経済支援型支給奨学金は、低迷する経済状況の中、適切な対応です。ただ、限りある資源の中、今後の展開は難しいのも現実です。目標にもあるように、現行奨学金の全体像について整備が必要でしょう。
- 限りある資源の中で、事務室の統合などの改善を行い、課外活動団体の活動時間延長を実現するなど努力しています。
- 「オンリーワン」の学生を育てるために、効果的で総合的な学生支援を推し進める体制ということが新たな目標として掲げられていますが、もう少し具体的な表現を考えられてはどうでしょうか。
- 大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」（ハンドブックP78～）に留意してください。ここで示されていることについて現状説明していくことも基準の自己チェックにもなり有効です。基準に達していない場合は、必ず記述してください。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- 学外委員から指摘のあったキャンパス・ハラスメントの施策については、ハラスメント防止のための措置として、「関西学院キャンパス・ハラスメント防止等に関する規程」を親規程として、関西学院大学では「キャンパス・ハラスメント相談規程」
- ★ 「キャンパス・ハラスメント調査委員会規程」を制定し、毎年関連事項を記載したチラシを配布し、学生に周知すると同時に、相談員が随時、学生等からの相談に応じられる体制をとっている。こうした相談員に対する研修を兼ねた形での、各部局での研修会開催を促している。また、研修会を開催しやすくするために補助金制度を新たに立ち上げた。

Ⅴ. 本項目の評価指標

＜全学的な指標＞

8.0.0.S1	奨学金の申請・採用者数
8.0.0.S2	奨学金の申請者に対する採用者比率
8.0.0.S3	学生支援センターへの学生の相談件数
8.0.0.S4	団体参加学生と団体不参加学生の、この大学で人生の一時期を過ごすことが将来にとって役立つと思っている学生の比率の比較
8.0.0.S5	卒業生のうち、大学時代にクラブ・サークル活動(宗教活動を含む)で学んだことや経験が、現在の生活に役に立っていると思っている比率(特に団体参加者)

＜個別的な指標＞
